



ヨコハマ **想**い vol.139



女優・歌手

倍賞 千恵子さん
Baisho Chieko

1941年生まれ、横浜市保土ヶ谷区在住。60年松竹音楽舞踊学校を首席で卒業後、松竹歌劇団(SKD)入団。61年映画『斑女』で女優デビュー、62年『下町の太陽』で歌手デビュー。69年から映画『男はつらいよ』シリーズに「さくら」役で出演。2005年紫綬褒章、13年旭日小綬章受章。映画『PLAN75』(22年公開)にて第46回日本アカデミー賞優秀主演女優賞ほか多数受賞。夫である作曲家の小六禮次郎さんとコンサート活動も続けている。

とっておきの「坂の上」

横浜には35年暮らしています。今住んでいるマンションの設計を、松竹歌劇団(SKD)時代のお友達の旦那さまがなさると伺って見に行きました。初めは妹(女優の倍賞美津子さん)も隣の棟に暮らすかも、スープの冷めない距離ね、なんて言っていたのですが、最終的には主人(作曲家の小六禮次郎さん)と私だけが横浜暮らしを始めることになりました。

わが家からは港の花火も見えますし、汽笛の音も聞こえます。暮らし始めたころは今より自然豊かで、タヌキを見ることもありました。坂が多くて難儀しましたが、上っていくと富士山を望む素晴らしい景色が広がっていて。坂もありがたいですね。上った先には今でも畑が少し残っています。畑の主は息子さんに代替わりされていますが、畑にいると「久しぶりね、元気？」なんて声をかけ

て。犬を飼っていたころは散歩で上って、近所の犬仲間とおしゃべりに花を咲かせたものです。なかなか素敵な「坂の上」でしょう？

歌と踊りから、役者の世界へ

幼いころから歌うことが好きでした。姉のおまけで応募したのど自慢がきっかけで、みすず児童合唱団に入団。中学1年の時にソロでレコードデビューというお話もありましたが実現せず。芸能界への執着はなかったもので、都立高校進学を目指し受験勉強していたところ、周囲の勧めで松竹音楽舞踊学校を受験してみることに。すると、なんと合格してしまいました。入学してから毎年進級試験があり、卒業までに同期は半分ほどに減ってしまう厳しい世界。苦しくても辛くても、練習した分だけ成果が出るのが張り合いで、努力に努力を重ねました。卒業後、歌と踊りで生きていきたいという夢を胸にSKDに入団。ところが松竹から女優として

フランス映画『パリタクシー』を山田洋次監督(94)が翻案・リメイクした『TOKYOタクシー』。終活に向かうマダム・すみれと、人生にちょっと疲れたタクシー運転手の物語だ。すみれを演じた女優・倍賞千恵子さんにとって182本目の映画となる。映画の公開を前にお話を伺った。

スカウトされ映画に出演することに。その後SKDの舞台に戻ることはありませんでした。

1963年公開の山田洋次監督映画『下町の太陽』で映画初主演。山田さんはまだ2作目の新人監督でした。それ以来山田さんとは長いお付き合い。今月公開の映画『TOKYOタクシー』にも出演させていただきました。山田監督91本目の作品です。

『TOKYOタクシー』

山田さんは「もっと面白くなる、もっと良くなる」と常に考えている方。私たちが「号外」と呼ぶ撮影当日の台本の手直しは、昔も今も変わりません。撮影で気持ちが上がってくると急いでしまうのも昔のまま。タクシーのシーンで、山田さんの指示を伝えるための車内のスピーカーがうまくいかず、じれったくなった山田さんがタクシーまで近づいてくるのに、急ぎすぎて手にしていらした杖が地面についていなかったと、共演した木村拓哉くんから聞きました。(笑)

私はタクシーを運転する木村くんの後ろ姿を見ながらお芝居したのですが、バックミラーいっぱいには彼の目が映った瞬間、高倉健さんを彷彿とさせるようなその目力にドキッとしました。木村くんはびっくりするくらい真面目で、勉強家で優しい方。人間としても役者としても引き出しがたくさんあり、奥からもっとすごいものが出てくるのではないかと、そんな印象を受けました。山田さんがこの役に木村くんを選んだことは、彼の人柄を知るほどに納得がいきました。

作品に描かれた横浜

私が演じたすみれさんはネイルサロンを経営していた人。きれいにネイルをしてイヤリングや指輪をしてサングラスをかけて。私はこれまで地味な服装の役柄が多かったもので、映画でサングラスをするなんて初め

て。華やかな衣装を身に着けると気持ちがすーっとすみれさんになっていく。そんな役への入り方に胸がわくわくしました。

東京から葉山へ向かう途中、美しいシーンで横浜が登場したことも本当にうれしかった。蒼井優ちゃん演じる若いころのすみれさんが初恋の人と踊ったダンスホールは、元町の「クリフサイド」。実は60年前、『さよならはダンスの後に』の歌がヒットした時にここでパーティーをしたこともありました。そして今のオーナーはかつてのゴルフ仲間。クリフサイドが映画に登場すると知って久しぶりに連絡を取り、中華街で食事をご一緒したのも良い思い出になりました。

今を大切に生きていたい

若いころに苦勞をしたすみれさん。年齢を重ね、自ら心を決めて住み慣れた柴又の住まいを離れ、最期の時を過ごすべく葉山の施設に向かいます。私もすみれさんのように潔くなれるかしらと考えてみましたが、今はまだそんな心境にはなれませんでした。人生って、長いような一瞬のような。将来すみれさんのように人生を振り返った時、どんな景色が心に浮かぶのかしら。

死とは何か?と考えた時期がありました。思い切って知り合いのご住職に尋ねると、少し考えてから「死とは、即ち生きることです」という答えが返ってきて、ハッとしました。死ぬとは、死ぬまで生きること。死があるからこそ生がある。だからこそ今をちゃんと生きていきたい。「今」を大切に生きることで、やがてすみれさんのような境地にたどり着けるのかもかもしれません。

映画『TOKYOタクシー』

11月21日(金)
全国の劇場にて公開
【監督】山田洋次
【出演】倍賞千恵子、
木村拓哉ほか



©2025 映画「TOKYOタクシー」
製作委員会

学校や塾、学童保育で子どもたちと取り組んでみませんか？

**応募受付
スタート!!**
応募締切
12月15日(月)



応募対象
小学4～6年生

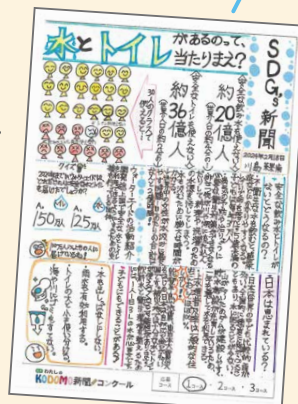
第1回 **読売 わたしの KODOMO 新聞**
コンクール in 神奈川



1 コース **SDGs 新聞コース**
SDGsの取り組みや調べたことを新聞形式でまとめてみよう！

2 コース **わたしの学び新聞コース**
学校の授業で学んだことを新聞形式でまとめてみよう！

3 コース **街の魅力発信コース**
街の魅力を新聞形式で紹介してみよう！



名古屋市立菊住小学校 5年生 川島葉菜南さん 愛知県

お問合せ:「わたしのKODOMO新聞コンクール」事務局
NPO法人Meets Vision内
TEL.058-252-5519 平日10:00～18:00
主催:わたしのKODOMO新聞コンクール実行委員会

応募要項など
詳しくは公式HPへ



専用の応募用紙を
お届けいたします！
申込みはこちらから▶



お試し読み
実施中！

